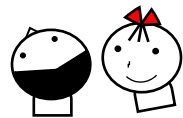




附属特別支援学校5校の協働による

筑波大学 特別支援教育 教材・指導法データベース 《 教材集 》

ごあいさつ



筑波大学には、我が国最大の障害科学に関する研究組織である人間系障害科学域と、視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、知的障害を併せ有する自閉症のある幼児児童生徒の教育を行う5つの附属特別支援学校、そして特別支援教育研究センターが設置されています。

筑波大学特別支援教育連携推進グループでは、5つの附属特別支援学校の専門性をもとに、特別支援教育に限らず全ての教育活動場面において活用できる教材と指導法に関するデータベースを公開しています。現在、355件の教材が掲載されています。

このデータベースに掲載されている教材・指導法は、いずれも筑波大学附属特別支援学校5校（視覚、聴覚、大塚、桐が丘、久里浜）で実際に使用されてきたものです。教材及び指導法は、一人ひとりの幼児児童生徒の特性に応じて考えられています。利用される方ご自身が、指導する幼児児童生徒の特性にご配慮の上、ご活用ください。（データベースに掲載されている情報の著作権は筑波大学特別支援教育連携推進グループ：元筑波大学特別支援教育研究センターに帰属しますので、無断での転載を禁止します。）

2018年4月 筑波大学特別支援教育連携推進グループ

教材・指導法データベースの使い方



その1 >> 教材に関する詳細な情報

子どもの実態を解説！
●対象

指導の様子を映像で解説！
●教材画像
●関連動画
●PDF資料

指導の意図を解説！
●ねらい
●期待される成果および効果

指導場面を具体的に解説！
●単元・活用場面
●使い方
●障害特性に対する配慮点

検索画面：

特別支援教育 教材・指導法データベース English 教材検索へ 動画検索へ

教材名 発語の難しい児童生徒を支援する教材（音声ペン） 市販を改良

※画像にマウスオーバーすると、画像の説明をお読みいただけます。

教材画像 教材画像

関連動画 詳細

指導案 指導略案.pdf

対象	知的障害のある小学部・中学部・高等部の児童生徒（言葉を使いがたい児童生徒、発音に困難がある児童生徒）
障害種別	知的障害教育
単元・活用場面	国語 算数、数学 自立活動 教員・補助員

教材・指導法データベースの使い方



その2 >> 簡単な操作

教材名やフリーワードを入力して検索！
●検索語句

プルダウンメニューから選べます！
●障害種別

プルダウンメニューから選べます！
●単元・活用場面

検索した教材がすぐ分かります！
●閲覧履歴

検索画面：

検索語句 障害種別 単元・活用場面 ソート順

検索する 条件をクリア

国語 算数、数学 理科 社会 音楽 図画工作、美術 体育、保健体育 生活
家庭、技術・家庭 道徳 外国語 情報 特別活動 自立活動 日常生活の指導 遊びの指導
生活単元学習 作業学習 読書前教育 教員・補助員 その他

検索結果は355件です。36ページ中1ページ目を表示しています。

No.	教材名	画像	対象	障害種別	単元・活用場面	動画	PDF
1	ろうそく「ふー」		言葉で要求を伝えようとして、簡単な言葉を模倣したりするが、発音が不正確である児童 ・呼吸が弱く、声量が小さい児童 ・吹く動作ができる児童 ・小学部	知的障害教育 自閉症教育	自立活動 遊びの指導		
2	増築紙芝居		・対象での販売活動に初めて取り組む児童 ・平仮名文字を認めることができる児童 ・初めての活動であって、不安に陥りやすい児童と、それと	知的障害教育	生活		

閲覧履歴

スシ旗 びったりお金を出そう 電流と磁石による力の向き確認模型 お互いをHAPPYにしてくれる言葉、あはれカード ガイドロープ



特性：



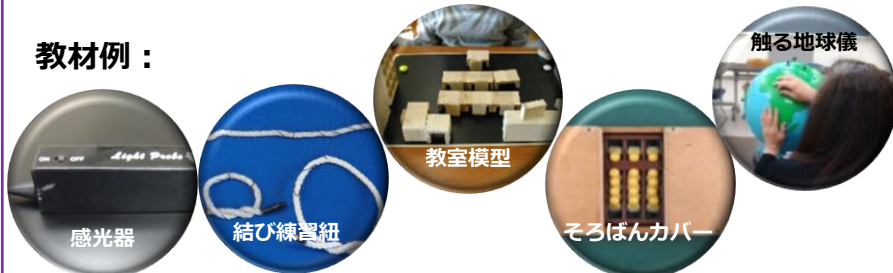
視覚障害：附属視覚特別支援学校

視覚は物の色や形、周囲の状況など多くの情報を一見にしてとらえることができる感覚です。そのため視覚障害者は晴眼者に比べると、得られる情報量に大きな差があります。視覚だけでなく、触覚や聴覚などたくさんの感覚を使いながら情報を得て、整理していくには時間がかかります。また、危険を伴う作業や運動もあるので、方法を工夫し、安全には十分に留意して行う必要があります。

教材・指導法のポイント：

- ・触れないものを触ってわかるもので表す。
- ・視覚情報を触覚、聴覚情報に置き換える。
- ・両手での操作がしやすいように工夫する。
- ・見やすさ、触ったときのわかりやすさに配慮する。

教材例：



特性：



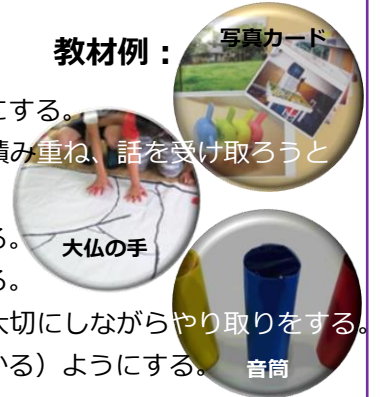
聴覚障害：附属聴覚特別支援学校

幼稚部段階では、見たり聞いたり、触ったりして分かる経験を積み重ね、分かることやできることを少しずつ増やしていきます。また、分かる経験を積み重ねることで子どもの表出意欲が育っていきます。その過程で話し言葉（話せる言葉、聞いて分かる言葉）を育てていくことになります。そのためには、小さなステップで学習を進めていくことが大切です。「見たり聞いたりして分かる」だけではなく、その場での（教材や手がかりなどをもとにした）やり取りが話し言葉を育てる上では大切になります。また、発音を意識して話す姿勢を育てていくことも重要です。

教材・指導法のポイント：

教材例：

- ・興味を持って活動に取り組めるようにする。
- ・伝えられたことが「分かる」経験を積み重ね、話を受け取ろうとする態度を育てる。
- ・生活の中で見通しを持てるようにする。
- ・子どもの発声や発話を促すようにする。
- ・子どもの表情や身振りなどの表出も大切にしながらやり取りをする。
- ・教材がない日常場面でもできる（分かる）ようにする。



特性：



知的障害：附属大塚特別支援学校

知的障害の認知特性により、身体や手指の操作面で不器用さが現れたり、記号や文章のみの抽象的な情報を正確に理解することに困難が生じたりしますが、個々の発達段階と生活年齢に配慮をした実際の経験や機能訓練を積み重ねることで、行動的理解を促し、社会参加や社会的自立を目指します。

教材・指導法のポイント：

- ・発達段階に応じた教材・教具を用いる。
- ・実生活に汎化できるようなステップを工夫する。
- ・情報提供：文章を簡潔に絵やイラストでわかりやすく。
- ・他者との関係性を促す教材や指導を工夫する。

教材例：



特性：



自閉症：附属久里浜特別支援学校

子ども一人ひとりによって、自閉症の特性の現れ方と、そのことが子どもにもたらす困難が異なります。一人ひとりの特性（苦手なこと、得意なこと）を把握して、指導方法や教材を工夫することが大切です。子どもが落ち着き安心して生活や学習に取り組めること、上手く出来た、分かったという経験を積むことができること、自分から取り組んでみたいと思えることを目指します。

教材・指導法のポイント：

お昼休みはどこにいく

- ・物理的環境を整える。
- ・見通しを持つことができるようにする。
- ・何を、どこで、だれと、どれくらい…、分かりやすく伝える。
- ・活動の始まりと終わりを分かりやすく伝える。
- ・見て分かること、聞いて分かることを活かす。

教材例：



特性：



肢体不自由：附属桐が丘特別支援学校

様々な原因から四肢や体幹に動かしにくさが生じることで、日常的な生活動作、学習動作がスムーズにできないことがあります。脳性まひなど脳の損傷による場合では、運動のしにくさだけでなく、視覚認知の困難さがみられることもあります。身体の動きを整えると同時に環境や道具の工夫により、目的の活動に安定的に、集中して取り組めるようにすることが大切です。場面や状況による道具の使い分けや必要がなくなれば配慮を減らしていくという柔軟な考え方が有効です。

教材・指導法のポイント：

- ・動かしやすい身体の状態を整える。
- ・動かしやすい環境を整える。
- ・見やすい、とらえやすい提示の仕方を工夫する。
- ・操作しやすい、扱いやすい道具を工夫する。
- ・情報を整理しやすくする。

教材例：



ご感想をぜひお聞かせ下さい！
データベースのメールフォームから、お送りいただけます。



ここをクリック！→

- ご感想は、こちらから -

または、

こちらから！→

<https://codia.co.jp/kyozai/>



附属特別支援学校の情報は、こちらからご覧になれます！

- ・附属視覚特別支援学校
<http://www.nsfb.tsukuba.ac.jp/>
- ・附属聴覚特別支援学校
<http://www.deaf-s.tsukuba.ac.jp/>
- ・附属大塚特別支援学校
<http://www.otsuka-s.tsukuba.ac.jp/>
- ・附属桐が丘特別支援学校
<http://www.kiri-s.tsukuba.ac.jp/>
- ・附属久里浜特別支援学校
<http://www.kurihama.tsukuba.ac.jp/>

